

中心部震災メモリアル拠点に関する仙台市議会質疑（抜粋）

| 議員 質 問 | 市 答 弁 |
|--|--|
| 平成 31 年 1 月常任委員会 | |
| <p>中心部メモリアル施設は、博物館だけでは困るという立場で意見を申し上げてきた。風化を避けるという意味での博物館機能もそうだが、「備えよ常に。天災」という視点での機能も必要だと思っている。委員の中にはそのような視点の方がいると思って良いか。</p> | <p>中心部拠点は震災の経験をどのように伝承していくかという機能を持つものであるが、経験・記憶をどのように防災・減災に活かすか、大きな災害を再び繰り返さないようにするかというのは重要な視点であると考えている。メモリアルに関する機能とご指摘のような機能について、どのように関連させるのか、また役割分担していくことが望ましいのか、今後の検討委員会の中で検討して参りたい。なお、委員の中に神戸の「人と防災未来センター」の知見をお持ちの方もおり、議論の中には出てくると考えている。</p> |
| <p>平成 32 年度中の基本構想策定を目指すとのことだが、風化が急速に進んでいると思うことから、出来るだけ早く構想を策定して、次の段階に移っていただきたい。また、中心部とはどのあたりで考えているのか、答えられる範囲でお答えいただきたい。</p> | <p>検討委員会でご議論いただくのはもちろんであるが、市民から意見を伺う機会を作るなど、丁寧な議論を進めていくということも必要。できるだけ効率的・効果的な運営を心がけながら、平成 32 年度中を目途に基本構想をまとめていきたい。また、中心部については、津波の被害を受けた沿岸部の施設に対する中心部ということであり、被災地の中心都市である仙台市の中心部に立地する拠点として、市内、県内、あるいは東北の広域なエリアでの同様の施設との連携やゲートウェイ機能などが期待されていると思われるが、具体的に中心部のどこなのかということについては、今後の検討に託していきたい。</p> |
| 平成 30 年第 2 回定例会 | |
| <p>東日本大震災から得た貴重な教訓を世界共有の財産として後世に継承し生命の尊さを世界に発信する施設となることを期待し、メモリアル施設と体験型市民防災センターの合築について検討を求める。類似の施設としてすでに神戸市が「人と防災未来センター」を設立している。</p> | <p>中心部メモリアル施設には、未曾有の東日本大震災における市民の記憶や経験を記録し、内外に発信することにより、教訓を後世に継承していくこと、被災地最大の都市として、沿岸部へのゲートウェイの役割を担うことなどの機能が求められるものと認識。一方、アーカイブの活用手法や市民の伝承活動などのあり方、他地域の震災遺構やメモリアル施設とのネットワーク、防災学習機能との関係性の整理など、様々な論点を検討することが必要となる。</p> |

| 議員質問 | 市答弁 |
|---|--|
| 平成 30 年 5 月常任委員会 | |
| <p>少なくとも発災から節目の 10 年となる 2021 年 3 月までに一定の整備を終えるべきではないかと考えるが、これまでの質疑の中では、大変厳しい状況と認識している。それでも、10 年の節目というところにおいて、一定の方向性をしっかりと打ち出していくべきと考えるが、今現在のスケジュールについて伺う。</p> | <p>昨年度内部検討、有識者に対するヒアリングを実施しており、現在、年度内の有識者の方を含む検討委員会の立ち上げに向けて準備をしている。2021 年 3 月前までに整備を終えるというのは困難であるが、できるだけ早期に中心部の拠点の詳細について説明できるよう準備を進めているところである。</p> |
| <p>宮城県全体で被災しており、本市のほか、各自治体がメモリアル施設をつくとすれば、それとの連携、県が相談相手になる各自治体と仙台市とのある程度のすり合わせも必要であると考えているが、仙台市の計画としては、今現在どんなふうに考えているのか。</p> | <p>被災地の中心都市であった仙台市の中心部に立地する拠点ということで、東北の広域のエリアにおける同じような施設との連携などが必須の条件になるであろうし、そのゲートウェイになる機能を担うものと考えている。どのように連携を果たしていくかということについては、個々の拠点施設や関係する県などとの協議が必要であり、ご指摘の運営をどのように担っていくのかの連携も含め、総合的に検討していくものになると考えている。</p> |
| <p>市民がそれぞれのマルチステークホルダー、多様な主体が防災に取り組むとすれば、多様な主体それぞれが訓練できる、常設的なそういう施設があって、そこで多様な主体がそれぞれの目的にかなうような訓練をしていくことが必要ではないか。これはメモリアルとセットだと考えるが、どのように考えるか。</p> | <p>中心部拠点については、平成 26 年 12 月に震災復興メモリアル等検討委員会の報告が出た段階で、今回の震災の記憶や経験を継承する場所として提言がなされており、東部地区のメモリアル施設等と連携した存在として、その検討を始めようとしているところである。</p> <p>一方、メモリアルということのほか、防災、例えば防災教育などをどのように考えるべきかというようなことを議会でもお尋ねいただいているところである。中心部拠点がどのような機能を担っていくべきかということについては、有識者にも様々に意見をいただいているところであり、メモリアルという機能と、そのほかにどのような機能を担っていくべきかということについては、これから検討していきたいと考えている。</p> |
| 平成 30 年第 1 回定例会 | |
| <p>震災の記録や証言をまとめて保存するアーカイブの整備と利活用について、どのように取り組んでいくのか。</p> | <p>今後、市内部における記録の集積と保存に努めるとともに、「3 が つ 11 にちをわすれないためにセンター」をはじめとする市民による記録保存との連携を図るなど、中心部メモリアル拠点における活用の検討に併せ、アーカイブの取組みを進めていきたい。</p> |

| 議員質問 | 市答弁 |
|---|---|
| 沿岸部と街中では災害の姿が全く違う。だからこそ、沿岸部と中心部の2拠点が必要ということだと思いがいかか。 | 宅地被害や都市型災害に係る発信も含め、中心部拠点のあり方について検討していきたい。 |
| 市民一人ひとりが語り部となり、過去から現在、これからを語り続けられる場所が必要であり、その取り組みを絶えず繰り返していくべき。 | 市民の皆さまの経験を語り継ぐ場と息の長い取り組みは不可欠。本市のメモリアル施設は、震災の猛威や都市型災害の実態を発信するとともに、震災の教訓を共有し、未来へと継承する役割が重要になるものと考えており、このような視点を十分に踏まえながら、中心部拠点の検討を進めていきたい。 |
| 震災の記憶や記録を語り継いでいくために、伝えていく人を育てることを柱に据えて中心部施設の整備検討を進めていくべきではないか。 | 震災の記憶や教訓を未来へと伝えていくのはやはり「人」であることから、人づくりの視点を重視しながら、効果的な伝承の手法やメモリアル施設の役割などについて、検討を進めたい。 |
| 今、津波体験者がこれまで語る事のできなかった思いを語り始めている。被害の実相を体験した方から聞き取り、だれが、どこで、どうして亡くなったかあるいはどうやって助かったかを検証し記録しておく必要がある。 | 中心部メモリアル拠点との連携・活用手法なども見据えながら、取り組みを進めていきたい。 |
| 蒲生のモニュメントの敷地には、亡くなった蒲生の住民の方の名前を刻んだ慰霊碑がある。住民以外で津波の犠牲になった遺族の希望があれば、もう一つ慰霊碑を作って、亡くなった方の名前の刻印を可能にすべき。そうやって刻むことが蒲生の被害の実相を後世に伝える事になる。 | 沿岸部における慰霊の場として、本市では地域ごとのモニュメントを整備。今後、中心部のメモリアル拠点整備の検討を進めていく中で、震災犠牲者への慰霊のあり方についても検討していきたい。 |
| コンセプトの中に市民の防災学習機能を整備したものを盛り込み、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」との協働も意識すべき。 | 市民の皆さまへの防災学習の機会や場の提供、メディアテークの「3がつ11にちをわすれないためにセンター」などの震災アーカイブの取り組みなどは重要な論点であると認識。他自治体の取組みなども踏まえながら、検討を進めたい。 |
| 平成29年第4回定例会 | |
| しっかりと目標年度を定めて進めるべき。 | 来年度を目途に基本構想に係る有識者委員会を立ち上げ、立地場所や規模、整備手法やスケジュール等の検討を着実に進めたい。 |

| 議員質問 | 市答弁 |
|--|--|
| 平成 29 年第 3 回定例会 | |
| <p>中心部におけるメモリアル拠点のコンセプトについて</p> | <p>沿岸部にオープンしている荒浜小学校などの施設の状況、また、今後整備が進む他の地域のメモリアル施設等との適切な役割分担などを考慮しながら、被災地の中心都市である本市の中心部にあるべき拠点の姿をしっかりと検討していきたい。</p> |
| <p>中心部メモリアル拠点と宮城県の広域防災拠点との関係について</p> | <p>震災伝承を主とするメモリアル拠点の機能と、広域防災拠点が有する防災学習を含む多様な機能との連携や役割分担について、引き続き県とも情報交換を行いながら、調整していきたい。</p> |
| <p>石巻等、他の地域においても同様の施設を作ることになっており、同様の施設を作ることとはどうなのかという意見もあると思うがいかがか。</p> | <p>国や県、他自治体も含め、メモリアル施設が増えてくることから、役割分担しながら、本市が作るべき施設をしっかりと検討していきたい。</p> |
| <p>仙台市として主体性を持ち、どういう施設を作りたいのかはっきりさせ、その上で県との擦り合わせなどを行うべき。20 年程前からずっと市内に防災学習機能を持つ施設がないと指摘しており、それを含めて整備を検討していくことになるのでは。</p> | <p>現地として訴えかけるものが、中心部に無いのが難しいところ、また、他地域の施設とどう棲み分けをするのかも非常に重要。都市型・複合型の災害として一体何があり、市民がどう対応したのかというストーリーは入れ込む必要がある。また、このような被害を再現しないように防災教育の視点も非常に重要であり、中心部メモリアルにおいてもそれらの視点を押さえながらコンセプトを作っていきたい。</p> |
| <p>市民全体が防災について学べる、体験できる施設を作るべき。</p> | <p>一番重要なのは、50 年 100 年後にこれを語り継げる様な施設にしたいということ。</p> |
| <p>「防災・減災の取り組みの発信拠点」という位置付けも大切。</p> | <p>中心部メモリアル拠点については、荒浜小学校などの沿岸部の施設との適切な役割分担や、東北の中核都市として本市が担う役割等を念頭に、そのあり方等について検討を進めており、震災の記憶と経験を未来に伝えていくほか、本市が防災環境都市として市民と共に防災・減災に取り組む姿を発信していく重要な拠点となるものとの認識。</p> |

| 議員質問 | 市答弁 |
|---|--|
| <p>それなりの規模の施設整備をすることになるのか。</p> | <p>沿岸部の2施設の活用状況を踏まえるとともに、被災地の中心都市であるこの本市の位置づけを考えれば、今後整備をされていくであろう他の地域の震災遺構やメモリアル施設とのネットワーク、役割分担など、幅広い観点から検討が求められるのではないかと認識しており、この点を踏まえながら、コンセプトや機能などについて、検討を深めていきたい。それから、50年後、100年後の未来にあの震災の記憶を着実に伝えていくために、市民一人ひとりが震災の記憶を伝承していく拠点としての展開が重要になるものと認識しており、多くの市民の皆様方の力を結集して、これを実現していきたいと考えている。</p> |
| <p>平成29年第1回定例会</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心部施設の現在の検討状況と年次計画をお示しいただきたい。 ・ 「津波体験館」のような小中学生のための体験学習館的施設を、中心部でなく、よりリアリティのある場所に整備すべきでないか。 ・ 神戸の「人と防災未来センター」と東西2館体制で防災・減災の拠点施設となり、世界に向けて貢献してほしいと願う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心部メモリアル施設につきましては、整備スケジュールを固めるまでには至っていない状況。 ・ 本市の施設や、国・他自治体等が沿岸被災地に整備する関連施設との役割分担はもとより、国内外への防災の発信拠点としての位置づけも、踏まえるべき重要な観点である。 |
| <p>市民の防災学習機能をコンセプトの中を含め、震災の教訓を風化させない取組みの一環とすべき。</p> | <p>震災の教訓を風化させずに継承していくためには、市民の皆さまへ防災学習の機会や場を提供することも重要。本市施設における役割分担などを踏まえながら、コンセプトや機能について検討を進めたい。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 他施設との差別化を図るといいますが、どのような施設を想定しているのか。 ・ 事業費はどの程度を想定しているのか。 ・ 本庁舎建て替えや音楽ホール整備との優先順位はどのように考えているのか。 ・ 完成までのスケジュールはどのように想定しているのか。 ・ 世界中から見学に来たくなるような施設を目指すべき。 | <p>中心部施設は、本市が震災の記憶と教訓を伝えていくための中核となる施設であり、外国からのお客様にも「東日本大震災を学びに仙台を訪れたい」と思ってもらえるような特徴を持つとともに、津波被災現場ではない中心部に立地するという独自性を明確にする必要があるが、事業費、スケジュール等も検討段階であり、例示の事業との着手時期の調整には至っていない。</p> |
| <p>中心部メモリアル施設について、これまで一体何をできて、平成29年度に何をするのか。</p> | <p>メモリアル交流館や旧荒浜小学校の整備と併せ、中心部施設に関する国内外の類似施設の情報を収集しつつ、個別に有識者からの意見聴取を行い、課題整理を進めてきた。平成29年度は基本構想の策定に向けて、様々な専門家から意見を伺い、更に議論を深めていきたい。</p> |

| 議員質問 | 市答弁 |
|---|--|
| 平成 28 年第 4 回定例会 | |
| <p>同じ過ちを繰り返さないためにも、記録と記憶を後世に残すことは重要だが、そのための中心部メモリアル施設の取組みが遅いのではないか。</p> | <p>震災の記憶と教訓を 50 年後、100 年後の未来に伝え、世界に発信し続けていくために、その中核を担うのが中心部施設であるから、被災された方々をはじめ市民の皆様の想いや、本市の地理・歴史などをふまえ、幅広い分野の専門家の方々から意見を伺いながら、様々な観点から、機能や展示内容などについて、更に深く検討していきたい。</p> |
| 平成 28 年第 3 回定例会 | |
| <p>中心部拠点施設について、現在までの検討状況を伺う。</p> | <p>各種の災害関連施設や防災学習施設などの状況を踏まえ、本市独自の施設のあり方について議論する中で、単なる展示・教育施設ではなく、市民の様々な経験や想いを後世に伝え、本市の復興まちづくりの象徴となるべき事業として、時代の変化に耐え、来館者の心により深くアプローチできるよう、更なる検討が必要であると考えている。</p> |
| 平成 28 年第 2 回定例会 | |
| <p>メモリアル事業全般の進め方</p> | <p>本事業については、単なる施設整備にとどまるのではなく、仙台市民が震災の記憶や経験を 50 年後、100 年後に伝えていこうとする、持続的な取り組みや活動そのものであると考えている。</p> <p>これまで、阪神・淡路や中越などのメモリアル施設を研究する中で、本市独自の施設があり得るのではないかとこのように考えており、すなわち、災害の脅威を体感していただき、伝承するという機能を基本としつつも、震災時に発揮された市民の力、地域の力といった「仙台の特質」を十分活かした取り組みが鍵になるというふうに思っている。</p> <p>中心部拠点については、震災復興メモリアル等検討委員会の提言はもとより、メモリアル交流館の開館、旧荒浜小学校校舎の遺構保存の決定など、提言後の動きも踏まえつつ、後世・世界に向けて本市が何をどのように発信していくべきかという事業の基本に立ち返り、庁内で議論を重ねているところ。</p> <p>今後、メモリアル事業全体を幅広い視野で捉えながら、各種の取り組みを相互一体的に推していきたい。</p> |

| 議員質問 | 市答弁 |
|--|---|
| 平成 28 年第 1 回定例会 | |
| 中心部の拠点施設の名称や目指すものは何か。 | 最も基本となる方向性は、メモリアル交流館と同じであると考えているが、名称などを含め整備内容は現時点で決定していない。 |
| せんだい 3. 1 1 メモリアル交流館と中心部の拠点施設の役割分担はどのようになるのか。 | メモリアル交流館については、沿岸部の拠点というふうに位置付けており、沿岸部を中心とした被災や復旧の状況、加えて、津波によって失われた生活・文化など、こういった地域の記憶を伝承していく機能、それから、沿岸部への玄関口として、地域の情報を提供するというような機能を担う施設。 一方、中心部の拠点については、東北の玄関口として、東北地方全体の被災状況など、より広範囲で捉えた震災の全体像や、沿岸部まで行く余裕がない方、震災を経験していない方に向けた津波被害の説明などに加え、震災関連資料の収集・整理・保存といった機能が求められる。 |
| 東日本大震災で被災した宮城、福島、岩手の分も含め、場合によっては福島第一原子力発電所の被害も含めて、東日本大震災全体の記憶を継承するようなものを仙台市が仙台市の中心部につくるということか。 | そのとおりである。 |
| 他の自治体と十分に協議し、その意向を踏まえる必要があるが、仙台が代表してつくるということを他の自治体とも話しているのか。 | 中心部の拠点につきましても、これから協議会を立ち上げて、コンセプトを練っていくことから、その段階で他市町村とも話をしていきたい。 |
| 中心部に整備する震災メモリアル施設は、神戸や奥尻島の施設と比べ、規模も内容も見劣りしないものになるというふうに理解をしているのか。 | 現時点で、規模などが決まっているわけではないが、未曾有の大震災の全体をしっかりと伝えられる内容のものを作り込んでいきたい。 |
| 神戸や奥尻島の施設は、いずれも独自の建物であり、中心部に整備する施設も独自の建物となるのか。 | 基本構想策定と合わせて検討していく。 |
| どの程度の予算額を見込んでいるのか。 | 新年度の基本計画の中で仙台市の中心部メモリアル施設が果たす機能の詳細を詰め、その上で予算や整備時期等を固めていきたい。 |
| 目途として開館はいつ頃を目指しているのか。 | 丁寧にご意見等を加えながら進めていく必要があることから、完成時期については未定である。 |

| 議員質問 | 市答弁 |
|--|--|
| <p>それなりのものでなければ仙台が玄関口として整備したということにならず、特に津波の恐ろしさ等を50年先、100年先へも伝えるということも踏まえた施設にしていきたい。</p> <p>開館するまでは荒井のメモリアル交流館が、仙台市唯一のメモリアル施設となることから、それも念頭に対応していきたい。</p> | <p>千年に一度と言われた大震災をいかに後世に伝えるか、その重要な施設と考えており、様々な映像等を駆使した体験の有り様も含めまして、検討を深め、実現に力を尽くしていきたい。</p> |
| 平成27年第3回定例会 | |
| <p>大きな拠点としてつくるのか、あるいはネットワーク的なものにするのか、どういう形で作ろうとしているのか。</p> | <p>検討委員会の報告書の中でも、東北全体の玄関口として、震災の全体図を発信していくという機能が求められているところであり、このような機能や、実際に来ていただく方の利便性、それから事業の効果など、こういったものを考慮しながら、一つとするか、ネットワークとするか、そういった点も含め、中心部の拠点のあり方について具体の検討を進めたい。</p> |
| <p>中越メモリアル施設の視察をし、1か所で体験や情報収集をできる施設の有効性を感じている。今後どういうスケジュールで進めていくのか。</p> | <p>有識者の方々などで構成する委員会を設置した上で、荒井駅のメモリアル施設の運営実績なども踏まえながら、この求められる機能を具体化するためのハード、物理的なあり方、そうしたものに関するものも含めた基本構想を策定する予定である。早目に一定の方向性を出せるように検討を進めたい。</p> |
| <p>長岡の場合は発災から完成、供用開始まで7年前後。本市はもう4年過ぎており、スピード感が必要。今後の考えを伺う。</p> | <p>これから詳細の検討委員会を立ち上げて進めていくという段階であり、整備時期まで申し上げるのは難しい段階であるが、スピード感を持って進めていくということは重要。それから、やはり、本市にとって未曾有の大災害の記憶を残す拠点施設であり、被災者の方を含め、多くの市民に納得いただける施設であることが必要。できるだけ早期に示せるように取り組んでいきたい。</p> |